

NGO-JICA協議会 コーディネーター

認定NPO法人シェア=国際保健協力市民の会 事務局長

山口 誠史さん

NGOとJICAが連携し、より効果的な支援を行っていくため、「NGO-JICA協議会」が年4回(うち、東京3回、地方1回)開催されており、私も6年前から参加しています。

最近協議している内容は、JICAの草の根技術協力事業の振り返りです。単なるプロジェクトの評価にとどまらず、「どのように連携できたか」という視点を入れて話し合



東ティモールでシェアが行っている学校保健プロジェクトの対象校を視察する山口さん

をしています。また、NGOが草の根以外のJICA本体事業になかなか参加できないのはなぜか、その障害を克服するためにはどうしたらいいのかなども議論しています。すべて議事録として公表されますので、解決に向け真摯に向き合っているとします。

私はNGOにとってもJICAにとっても、途上国の現場で一緒にやっていくことは、必ずお互いにとってプラスになると信じています。ただ、今後あらゆるスキームで連携を図っていくためには、案件形成からNGOが介入できる体制づくりが必要です。例えば、「こういった計画があるから応募してください」というのではなく、「この地域ではこういう問題があるからこういう案件を一緒にやりましょう」といったことができるといいですね。

これからも、JICAと対等なパートナーとして、緊張感ある連携を続けていきたいと考えています。



市民参加協力調整員

JICA四国

藤野 紀子さん

市民参加協力調整員は、JICAの国内機関(全国17カ所のうち12カ所)に配置されています。私たちの役割は、JICAと地域の方をつなぐ“懸け橋”となること。草の根技術協力事業の応募相談から採択後のモニタリングをはじめ、市民参加協力全般の窓口になっています。また、四国には良い活動をしている団体がまだまだたくさんあるので、私たちから働き掛けて、何か一



NPO法人TICOの草の根技術協力事業の視察でカンボジアを訪問する藤野さん(左から2人目)

緒に新しい取り組みができないか相談させていただくこともあります。

私にとって、そしてJICAにとっても、NGOの方々はいわゆる“地域で頼りになるエキスパート”。国内で国際協力を推進していくために、かけがえのないパートナーになっています。とはいえ、NGOにはNGOの文化や方向性があるし、それぞれの団体間でも業務の進め方などに違いがあるはず。そして、JICAにも制約があることも事実です。だから、最初にお互いに“できること”と“できないこと”をさらけ出し、しっかりと違いを説明して理解し合うことが大切だと考えています。その上で私たちも、皆さんからの提案はできるだけ形にできるように努力していきたい。これまで途上国に縁がなかった人も、“国際協力”と聞いて構えず、NGOの活動などを通じてサポーターが増えてくれればと思っています。



特集

NGOとJICA つないだ力を届けたい

連携の最前線で

開発途上国でより効果的な支援をするためこれか
それぞれの立場で、連携の最

活躍する人たち

らますます連携の必要性が高まるNGOとJICA。
最前線で働く人たちに話を聞いた。

草の根技術協力事業(パートナー型) プロジェクトマネージャー

「ラオスにおける車椅子サービスの質の向上及び現地への事業運営移管」

認定NPO法人 難民を助ける会

岡山 典靖さん



認定NPO法人難民を助ける会では、ラオス保健省が管轄する国立リハビリテーションセンターと協働で、障がい者の身体機能や生活環境などを総合的に査定し、一人一人に合った車椅子の製造を目指しています。JICAの草の根技術協力事業を活用して4年半が経ちますが、その間に、少しずつ成果が積み重ねられてきました。

私の役割は、いわゆるプロジェクト全体の統括です。最終目標を達成できるよう、保健省、センター、車椅子工房など、さまざまな部署との調整力が求められます。彼らとは毎日机を並べて仕事していますので、問題が起こりそうとき、少しでも疑問に思うことがあったりすると、すぐに話し合いの場を持つようになっています。「ラオスに車椅子を普及したい」という強い思いがあるがゆえに、意見がぶつかってしまうこともよくあるのですが、言葉も文化も違うので、どのように価値観を

すり合わせていくのも難しい点です。また、ラオスには“ボーベニアン(問題なし)”という言葉があり、国民性も影響しているのか、“どうにかなるさ”という考えが強いのも事実です。車椅子のクオリティを高めていくために、数ミリのずれにもこだわるようになってほしい。プロジェクト終了まで、JICAと連携しながら、現地の人と共に走っていきたいと思います。



脳性まひの少女に車椅子を引き渡し、体に合っているかどうかを確認する岡山さん

NGO-JICAジャパンデスク

JICAカンボジア事務所

水沢 文さん 小川 紀子さん



JICAカンボジア事務所では「JICA PLAZA」を併設し、カンボジア国内で活動するNGOに関する情報が得られる場として開放しています。館内には、インフォメーションセンター、図書室、NGOデスクがあり、現地に駐在しているNGOの方から草の根技術協力事業などに関する相談も受け付けています。

JICAとNGOの連携を促進するため、私たちが特に力を入れて企画しているのが「ENJJ協議会」の開催です。これは、日本大使館(Embassy)、NGO、JICA、商工会(JBAC)の関係者が集まる会合で、年2回の「全体会議」と、不定期に分野別に情報を共有する「分科会」があります。そのほかにも有志が集まり、分野横断的な会合も活発に行われています。だから、いざ連携して何かをしようとなった時、すでにENJJで顔を突き合わせて情報共有が進んでいるため、

私たちも“球”を投げやすいし、受けやすいのです。ENJJという受け皿を通じて、今ある輪をもっと広げて、お互いを知ることができればと思っています。そして私たちが学び、さらなる連携の可能性を探っていきたい。「カンボジアのためになることをしたい」という気持ちは皆同じはず。まだまだできることはたくさんあると思っています。



NGO関係者とJICA PLAZAで打ち合わせをする水沢さん(中央)と小川さん(右)